



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

4月号—No.359

2025.3.25

(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【中緑(なかみどり)】青みを含んだ鮮やかな緑色。

深緑と浅緑の中間色で「なかのみどり」とも読む。平安時代に定められた延喜式第14巻の縫殿寮(ぬいどのりょう。宮中の衣服の裁縫などを司った役所)の業務のなかで染め方が定められているほど古い色名。

●目次 / contents

今月のニュース..... 2

令和6年度公共ホール等活性化支援事業報告

財団からのお知らせ..... 4

ステージラボ茅野セッション参加者募集 / 第25回「地域伝統芸能まつり」開催 / 令和6年度「公立美術館地展開型研修事業(美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ)」開催報告 / 「特別寄稿 ビューポイント view point」No.19掲載について

今月の情報..... 7

地域通信

制作基礎知識シリーズ Vol.55..... 10

コンセッション(公共施設等運営権)とは

今月のレポート..... 12

神奈川県綾瀬市・海老名市・座間市・大和市

アートプロジェクト「ある日」

●令和6年度公共ホール等活性化支援事業

さまざまなアーティストと出会った各地の様子を紹介します

令和6年度
公共ホール等
活性化支援事業
報告



写真

1: 公共ホール音楽活性化事業(おんかつ) 西郷村文化センターでのコンサート (アーティスト: 今田篤)

2: 公共ホール邦楽活性化事業 都城市でのアクティビティ (アーティスト: 大萩康喜)

3: 公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)公演 (Bプログラム・鹿児島県与論町/アーティスト: 長与江里奈) 撮影: 笠門麗

4: リージョナルシアター事業 小学校でのアウトリーチ (鳥取県/アーティスト: 福田修志) 写真提供: (公財)鳥取県文化振興財団

●令和6年度公共ホール音楽活性化事業

- (おんかつ)実施団体/派遣演奏家
- 福島県西郷村(今田篤)
- 長野県飯山市(Modétro Saxophone Ensemble)
- 静岡県袋井市(カメハ)
- 滋賀県長浜市(Modétro Saxophone Ensemble)
- 兵庫県福崎町(西村悟)
- 鳥根県安来市(Modétro Saxophone Ensemble)
- 徳島県勝浦町(西村悟)
- 高知県香南市(関喜弦介)
- 熊本県荒尾市(Modétro Saxophone Ensemble)
- 熊本県宇土市(関喜弦介)

◎問い合わせ

芸術環境部 おんかつ担当
Tel. 03-5573-4076
onkatsu@jafra.or.jp

地域創造では、これまで公立文化施設の活性化を支援する事業を積極的に提案してきました。その第1弾として1998(平成10)年度に立ち上がったのが、オーディションで選考されたクラシック音楽の若手演奏家を市町村に派遣し、地域の公立ホールと共同でコンサートとアウトリーチを企画・実施する公共ホール音楽活性化事業(通称:おんかつ)です。

以来、ジャンルを広げ、それぞれの課題に応じた特徴ある事業を企画し、要望を踏まえながらリニューアルしてきました。今号では、財団設立30周年の締めくくりとして、アーティストを地域に派遣して実施しているクラシック音楽、邦楽、現代ダンス、演劇の今年度の事業の模様をご紹介します。

●公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)

今年度は5組の演奏家が10地域で事業を実施しました(左欄参照)。その中の1カ所、人口約2万1千人の福島県西郷村^{にしこう}ではピアニストの今田篤さんが事業を実施しました(11月28日～30日)。

特にホールコンサートは、本格的なクラシックコンサートを行った経験がないなかでの挑戦

でしたが、4月に行われたプレゼンテーションで今田さんの演奏に感銘を受けた担当者が「村民に今田さんの演奏を届けたい」という情熱あふれる広報活動を展開し、前売券は完売。当日は平土間の会場中央に設置したピアノを観客が囲み、圧巻の演奏を堪能しました。

●公共ホール邦楽活性化事業

今年度は3組の演奏家が6地域で事業を実施しました(右欄参照)。その中の1カ所が竹弓の生産で有名な南九州の拠点都市・都城市です(3月7日～9日)。同市を訪れたのは、地域創造の登録演奏家である大萩康喜さん(尺八)、折本慶太さん(尺八)、大萩絵理さん(箏・十七絃・三味線)の3名です。

障害者支援施設へのアウトリーチは、鹿の鳴き声を2本の尺八で表現する「鹿の遠音」からスタート。どこからともなく聞こえてくる尺八の掛け合いにみんな興味津々。都城市の民謡「安久節」では、三味線も加わって一層にぎやかな演奏になりました。アンコールの『川の流れるように』では一緒に歌う場面もあり、楽しいひと時を過ごしました。

ホールプログラムでは親子を対象としたファ

▼ 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

ミリーコンサートを実施しました。普段から尺八を自ら製作している大萩さんは、開演前に尺八製作のミニワークショップを実施し、コンサートと一緒に演奏。また、尺八独奏では、大萩さんがとても大切にしている「鶴の巣籠」を披露。親子の鶴が鳴き交わす様子やいつか訪れる別れの時を尺八のあたたかな音色で切々と表現しました。

● 公共ホール現代ダンス活性化事業 (ダン活)

ダン活は2017(平成29)年度に事業を大幅にリニューアル。アウトリーチ等の地域交流プログラムを実施するA、市民参加作品を創作・上演するB、アーティストのレパトリー作品を上演するCの3プログラムを1年1プログラムずつ地域のニーズに応じた順番で3カ年実施できるようになりました。今年度は、A3地域、B5地域、C3地域の計11地域が事業を実施しました。

Cプログラムを実施した熊本県天草市では、ダン活登録アーティストの康本雅子さんが自らの子育ての体験を題材にしたレパトリー作品を上演。子どもから大人まで多世代の観客が集まり、自身の子育てや子どもだった頃の経験と重ね合わせながら鑑賞していました。

Bプログラムを実施した鹿児島県与論町では、ダン活登録アーティストの長与江里奈さんが約30名の島民と共にダンス作品を創作・上演。参加可能な練習日数によって3つのグループに分け、少しだけダンスにふれてみたい人から本格的に関わりたい人までが、共に取り組むプロジェクトとして企画しました。体育館に特設会場を設え、窓の外に見える木々をライトアップするなど、与論島の自然を取り入れて演出。アンコールでは有志の観客を巻き込み踊り、大いに盛り上がりました。

● リージョナルシアター事業

リージョナルシアター事業は、2013(平成25)年度に大幅なリニューアルを実施。演劇のアーティストを地域に派遣し、公立ホールと共にワークショップを企画・実施する事業になりました。

今年度は8名のアーティストが8地域で事業を実施しました(右欄参照)。

三重県四日市市は、ホールを指定管理する四日市市文化まちづくり財団の若手職員の育成を目標のひとつに掲げて、志賀亮史さん(演出家、百景社代表)と共に取り組みました。1回目派遣で職員向けインリーチを受けた若手職員たちがワークショップを企画。2回目派遣で実際に「よっかいち空想まちあるき」と題したワークショップを実施しました。参加者たちは四日市市文化会館から茶室「泗翠庵」までの約1キロを散策しながら、道中で見つけた不思議なモノを写真撮影。泗翠庵に到着後、お抹茶をいただきながら、撮影した写真から広げた空想を発表し合いました。参加者からは「何気なく通っていた道を面白く歩くことができた」との声が挙がっていました。

鳥取県では、エースバック未来中心(鳥取県立倉吉未来中心)が地域に向けて行う取り組みとして、福田修志さん(劇作家、演出家、F's Company代表)が琴浦町立船上小学校の4・5年生を対象にアウトリーチを実施しました。コミュニケーションゲームを終えた後、3グループに分かれて3枚の写真から「何かを探しに行くお話」をつくるワークに取り組みました。また、地域における人材を育成するため、地元の演劇関係者にも呼びかけ、実際にワークショップを企画・実施するプログラムにも取り組んだほか、未就学児から親子まで参加できる公募ワークショップも行いました。

各事業の様子は財団YouTubeでも公開していますので、今後の事業の参考にしていただけますと幸いです。

邦楽



ダン活



リージョナル



*おんかつは3月末公開予定

● 令和6年度公共ホール邦楽活性化事業 実施団体/演奏家

- 福島県白河市(森梓紗)
- 兵庫県養父市(安嶋三保子)
- 福岡県中間市(森梓紗)
- 熊本県益城町(安嶋三保子)
- 宮崎県都城市(大萩康喜)
- 沖縄県名護市(森梓紗)

◎ 問い合わせ

芸術環境部 邦楽担当

Tel. 03-5573-4069

hougaku@jafra.or.jp

● 令和6年度公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)実施団体/アーティスト

◎ Aプログラム

- 三重県津市(長与江里奈)
- 京都府(中村蓉)
- 高知県四万十市(藤田善宏)

◎ Bプログラム

- 茨城県日立市(大島匡史朗)
- 長野県喬木村(康本雅子)
- 静岡県菊川市(井田亜彩実)
- 鹿児島県与論町(長与江里奈)
- 沖縄県浦添市(マニシア)

◎ Cプログラム

- 山形県大石田町(浅井信好)
- 千葉県市川市(浅井信好)
- 熊本県天草市(康本雅子)

◎ 問い合わせ

芸術環境部 ダン活担当

Tel. 03-5573-4067・4077

dankatsu@jafra.or.jp

● 令和6年度リージョナルシアター事業 参加団体/派遣アーティスト

- 愛知県知多市(樋口ミユ)
- 三重県四日市市(志賀亮史)
- 大阪府豊中市(有門正太郎)
- 兵庫県西宮市(ごまのはえ)
- 鳥取県(福田修志)
- 島根県安来市(越智良江)
- 香川県丸亀市(多田淳之介)
- 熊本県宇土市(田上豊)

◎ 問い合わせ

芸術環境部 演劇担当

Tel. 03-5573-4124

regional@jafra.or.jp

財団からのお知らせ

●ステージラボ茅野セッション参加者募集

ステージラボは、公立文化施設等の職員を対象に、ワークショップ等の体験型プログラムやグループディスカッションなど、講師と参加者の双方向コミュニケーションを重視したカリキュラムに取り組む、少人数ゼミ形式の実践的な研修事業です。

令和7年度の前期セッションは、茅野市民館・茅野市美術館(長野県茅野市)にて2コースを開催します。各コースの詳細は募集要領をご覧ください。皆様のご参加をお待ちしています。

募集締切: 2025年4月25日(金) 必着

●ステージラボ茅野セッション概要

[日程] 2025年7月1日(火)~4日(金)

[会場] 茅野市民館・茅野市美術館

(長野県茅野市塚原1-1-1)

[開講コース] ホール入門コース、自主事業コース

[定員] 各コース20名程度

[主催] 一般財団法人地域創造

[提携] 茅野市民館指定管理者 株式会社地域文化創造

[共催] 茅野市

[後援] 長野県

◎ホール入門コース

【コーディネーター】

野村政之(信州アーツカウンシル ゼネラルコーディネーター)

【対象となる職員の目安】

公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公共ホール・劇場において業務経験年数1年半未満の方。

【コース概要】

今回の会場である茅野市民館のスタッフ、活動に携わる地域住民の皆さんにお話を聞きながら、開館から20年にわたり市民の主体性を軸に、実験的な芸術創造を含めて事業・運営を行ってきた現場のあり方、地域との関わりを学びます。並行して、先行き不透明な今の時代、一人の人間として文化芸術を通して地域にどう関わり、生きていきたいか、働き方やキャリア

についても参加者同士で学び合いたいと思います。

◎自主事業コース

【コーディネーター】

鈴木ユキオ(「YUKIO SUZUKI projects」代表/振付家・ダンサー)

【対象となる職員の目安】

公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、自主企画による事業を実施している公共ホール・劇場において業務経験年数が2~3年程度の方。

【コース概要】

劇場は「人」が集う場です。市民・観客・アーティスト・職員・観光客……さまざまな人のことを想像しながら、ホールの可能性、やるべきこと、やりたいことをクリアにしていきましょう。身体を動かして、いろんな人の話を聞き、同じ志をもつ仲間と話し合いながら未来を創り出していきますませんか?

◎茅野市民館・茅野市美術館

八ヶ岳山麓の高原都市、長野県茅野市にある茅野市民館は、茅野市美術館を併設し、劇場・音楽ホール、市民ギャラリー、図書室など多様な機能を併せ持つ、JR茅野駅に直結した文化複合施設です。「市民一人ひとりが主人公になれる場」という基本理念のもと、建設計画から市民が直接参加してつくり、2005年に開館しました。

茅野市が100%出資する株式会社地域文化創造が指定管理者として、茅野市民館・美術館に関わる市民サポーターの活動を支える特定非営利活動法人サポートCと、事業の企画・制作や実施時の運営、利用者のサポート、館の運営に関するさまざまな会議や集まりへの参加など幅広く協働し、運営しています。

また、開館以来、事業の提案を地域から公募し、寄せられたアイデアを市民と共に検討し、実施しています。

ホール・美術館・コミュニティの3つの機能を持つ複合施設の特徴を生かし、さまざまな表現やアートに親しみ、文化をつくり、人々が集う地域の交流拠点を目指しています。

[指定管理者] 株式会社地域文化創造

●ステージラボ茅野セッション参加申し込み方法

当財団ホームページから募集要領・申込書類をダウンロードし、必要事項をご記入の上、メールでお申し込みください。

<https://www.jafra.or.jp/project/training/01.html#boshu>

申し込み先: kensyu@jafra.or.jp

●ステージラボに関する問い合わせ

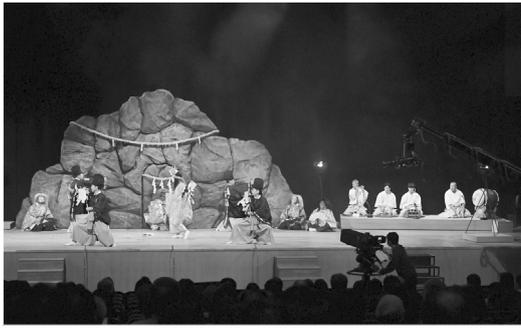
芸術環境部 児島

Tel. 03-5573-4183

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

●第25回「地域伝統芸能まつり」開催



各地の地域伝統芸能や古典芸能が一堂に会するイベント「第25回地域伝統芸能まつり」を3月2日、東京都渋谷区のNHKホールで開催。「源」をテーマに地域伝統芸能7演目、古典芸能1演目が披露されました。

オープニングでは、地域伝統芸能まつりの25年の歴史を映像で短く振り返り、その後出場者全員がテーマ曲『曼荼羅21』に合わせて元気よくステージに登場。まつりの始まりを活気づけました。

披露された最初の演目は、大分県豊後大野市から「御嶽神楽」。今回演じたのは、「岩戸開」。天照大神を誘い出す舞が神楽の原点と言われていることにちなみ、ユーモアも交えた迫力ある演技を見せてくれました。

次に登場したのは、新潟県十日町市から「新保広大寺節」。新保広大寺節は日本民謡のルーツとも言われ、全国各地の「口説」の源流ともなっています。唄はもちろんのこと、踊り手たちの、腰を据えて手さばき、足さばきする、切れの良い踊りにも注目が集まりました。

続いて、山梨県甲府市の「天津司舞」。9体のご神体である人形を「御船」と呼ばれる囲いの中で操って舞わせる天津司舞は、日本最古の人形劇のひとつと言われており、受け継いでいく保存会の皆様の姿勢に、伝統の尊さを感じました。

続いて、石川県輪島市の「御陣乗太鼓」。上杉謙信が奥能登に攻め込んだ際、上杉軍を退散させたという謂れのとおり、独特の迫力を感じるパフォーマンスでした。震災や豪雨災害にも負けず、伝統を守り伝えていく力強い姿に、

会場からはひととき大きな拍手が送られました。

そして第2部は、古典芸能からスタート。今回の半能「高砂」は、能の大成者として知られる世阿弥の代表作のひとつです。シテである住吉明神を梅若紀彰さん、ワキである神主友成を御厨誠吾さんに演じていただきました。

続いて、福井県勝山市から「勝山左義長ばやし」。小正月の伝統行事である左義長(どんど焼き)ですが、演者が皆で長襦袢を着用し、短いばちで太鼓を打ち鳴らすのは全国で勝山市だけのものです。太鼓に座って音の調整をするのも独特で、演者の笑顔と個性的な演技に会場にも笑みがこぼれました。

続いて、兵庫県宍粟市から「宇原獅子舞」。地域外からの受け入れ、女性の参画、オンラインの活用により、新しい保存会の形をつくり上げました。演目は、最も難易度の高い「梯子」を披露。見上げる高さの梯子を上っていく毛獅子の演技に、息を呑む観客の様子も見られました。

最後に登場したのは、徳島県徳島市から「阿波おどり」。世界的にも知られた阿波おどりは日本各地にも根付き、新しい未来への可能性を感じさせてくれます。今回は、徳島市の阿波おどり振興協会とともに、高円寺の姉妹連も参加する珍しいコラボレーションが実現しました。阿波おどりの興奮冷めやらぬ幕を閉じ、客席からは盛大な拍手が惜しみなく送られました。

なお、地域伝統芸能まつりは、25回目となったことを踏まえ、これを一つの区切りとして、今回をもって終了いたします。長年にわたり、ご協力、ご支援を賜り誠にありがとうございました。

写真：第25回地域伝統芸能まつりのステージから

左：御嶽神楽(大分県豊後大野市)
右：御陣乗太鼓(石川県輪島市)

●第25回地域伝統芸能まつり

[会期] 2025年3月2日(日)

[会場] NHKホール(東京都渋谷区)

[主催] 地域伝統芸能まつり実行委員会、一般財団法人地域創造

[実行委員] 鎌田東二、香山弘弘、河内隆、小松和彦、下重暁子、田村孝子、中嶋太一、原邦彰、山本容子(50音順、敬称略)

[後援] 総務省、文化庁、観光庁、NHK

[協力] 名鉄観光サービス株式会社

◎演目・出演自治体

●御嶽神楽(大分県豊後大野市)

●新保広大寺節(新潟県十日町市)

●天津司舞(山梨県甲府市)

●御陣乗太鼓(石川県輪島市)

●半能「高砂」

出演：梅若紀彰、御厨誠吾 ほか

●勝山左義長ばやし(福井県勝山市)

●宇原獅子舞(兵庫県宍粟市)

●阿波おどり(徳島県徳島市)

財団からのお知らせ

●令和6年度「美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ」

◎千葉県立美術館

●第1回(2024年6月27日)

「デジタル時代の美術館」

講師：甲野正道(大阪工業大学専門職大学院 知的財産研究科 教授)、横井勝(株)テレビ朝日 技術局コーポレートデザインセンター 新領域・先端デザイン担当部長)

●第2回(2024年12月26日)

「ミュージアムとアクセシビリティ」

講師：伊東俊祐(國學院大學博物館学研究室 国立アートリサーチセンター)、鈴木智香子(国立アートリサーチセンター 研究員)

◎田川市美術館

●第1回研修会(2024年7月29日)

「地方公立美術館の未来と可能性：限られたリソースを生かす発想と戦略」

講師：木下直之(静岡県立美術館館長)、鬼本佳代子(姫路市立美術館学芸課長)

●第2回研修会(2025年1月24日)

「過疎地域におけるアートを通じた街づくりの継続性を考える」

講師：山野慎吾(NPO法人黄金町エリアマネジメントセンター事務局長)、楠本智郎(津奈木町立つなぎ美術館学芸員)

◎鹿児島市立美術館

●第1回研修会(2024年11月19日)

「対話型鑑賞の基本」

講師：伊達隆洋(アート・コミュニケーション研究センター所長/京都芸術大学アートプロデュース学科准教授・学科長)

●第2回研修会(2025年2月5日)

「広報活動におけるSNSの活用とミュージアムグッズ」

講師：洞田貴晋一朗(洞田貴ブランニングス(株)代表取締役)、大澤夏美(ミュージアムグッズ愛好家)

◎問い合わせ

総務部 高野
Tel. 03-5573-4056

●特別寄稿 ビューポイント view point

に関する問い合わせ

芸術環境部 和田

Tel. 03-5573-4093

●令和6年度「公立美術館地域展開型研修事業(美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ)」開催報告

この事業では、美術館のマネジメントに関する研修会を、地域創造と申請館の共催で2年間にわたって実施しています。研修テーマを申請館が希望する内容に沿って組み立てる「オーダーメイド型」であることが特徴です。また、県域や地域の美術館等とともに研修を受けることで相互交流の場とすることを目指しています。今年度は、千葉県立美術館、田川市美術館、鹿児島市立美術館で、それぞれ2回のゼミを開催しました。

千葉県立美術館での1回目の研修は、「デジタル時代の美術館」をテーマに、社会のデジタル化により美術館が置かれている状況も刻々と変化している現状を鑑み、これからの美術館に関わる職員が把握しておくべき美術著作権の知識およびデジタル技術を活用した広報について学ぶことを目的に、大阪工業大学専門職大学院知的財産研究科教授の甲野正道氏と(株)テレビ朝日技術局コーポレートデザインセンター新領域・先端デザイン担当部長の横井勝氏にご講義いただきました。2回目の研修は、これからの美術館に求められている役割を考える機会の一つとして、「ミュージアムとアクセシビリティ」をテーマに、『ミュージアムのケースから知る!学ぶ!合理的配慮のハンドブック』筆者である、国立アートリサーチセンター客員研究員の伊東俊祐氏と、同センター研究員の鈴木智香子氏を迎え、具体的な事例を踏まえたケーススタディを行いました。

田川市美術館では1回目の研修として、「地方公立美術館の未来と可能性：限られたリソースを生かす発想と戦略」をテーマに開催。静岡県立美術館館長の木下直之氏に文化資源学の視座から地方の公立美術館の可能性についてお話いただいた後、姫路市立美術館学芸課長の鬼本佳代子氏に、主に異種館連携の教育普及事業を中心に実例を交えてご講義いただき、公立美術館が限られた人員と予算で、新しい視点や発想を得るための機会となりました。2回目の研修では、アクセスの不便さや集客の難しさなど、公立美術館がさまざまな課題に直面していることを踏まえ、

地域住民との連携を深めて美術の可能性を広げる取り組みについて学ぶため、「過疎地域におけるアートを通じた街づくりの継続性を考える」をテーマに開催しました。津奈木町立つなぎ美術館の学芸員である楠本智郎氏とNPO法人黄金町エリアマネジメントセンター事務局長の山野慎吾氏を講師に迎え、それぞれの地域での具体例を知る機会となりました。

鹿児島市立美術館での1回目の研修は、「対話型鑑賞の基本」をテーマに、アート・コミュニケーション研究センター所長/京都芸術大学アートプロデュース学科准教授・学科長である伊達隆洋氏を講師に招き、来館者に多様な鑑賞体験の機会を提供することを目指し、対話型鑑賞の基本を講義とワークショップで学びました。2回目の研修は、「広報活動におけるSNSの活用とミュージアムグッズ」をテーマに、森美術館のSNS運用を担当している洞田貴晋一朗氏から、SNSの基本的事項から地方館にも真似できる運用術を学ぶ研修を開催。その後、ミュージアムグッズ愛好家である大澤夏美氏を講師に、館の運営におけるミュージアムグッズの位置づけや役割、その開発の仕方などについて、講義とワークショップを交えた研修を行いました。

このように美術館出前(オーダーメイド)型ゼミでは、地域の特色や現在抱えている課題に沿って研修事業を行っています。毎年、10月末頃に募集をしていますので、ご興味のある館はぜひご検討ください。



田川市美術館での第1回研修会の様子

●「特別寄稿 ビューポイント view point」No.19掲載について

地域創造ホームページ限定で、有識者やキーパーソンから文化芸術および公立文化施設等におけるチャレンジングな取り組みを寄稿していただくコーナー「特別寄稿 ビューポイント view point」。

今回は岐阜県県民ふれあい会館 サラマンカホー

ル支配人の嘉根礼子氏にご寄稿いただきました(3月末更新予定)。

<https://www.jafra.or.jp/library/other/column19.html>



▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

地域通信

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業(予定)です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北] 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東] 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部] 新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿] 三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国] 鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄] 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当

●2025年6月号情報締切
4月15日(火)

●2025年6月号掲載対象情報
2025年6月～8月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●札幌市

札幌コンサートホールKitara
〒064-8649 札幌市中央区南
島公園1-15

Tel. 011-520-2000 川本孝

<https://www.kitara-sapporo.or.jp/>

Kitaraあ・ら・かると

「ファニーさんのオルガンコンサート ～星をめざして～」

第25代Kitara専属オルガニストのファニー・クソーが、星や宇宙にまつわる作品を奏でるオルガンコンサート。作品解説のほか、演奏中の手元や足元をプロジェクターで投影するなど、オルガン初心者にもやさしいコンサートとなっている。終演後には、楽屋やパイプオルガンなどを間近で見ることができるバックステージツアーも開催。

[日程] 5月5日

[会場] 札幌コンサートホール

Kitara

●青森県十和田市

十和田市現代美術館

〒034-0082 十和田市西二番町10-9

Tel. 0176-20-1127 中川千恵子

<https://towadaartcenter.com/>

エルヴィン・ヴルム 人のかたち

写真や映像、絵画といった多様なメディアを用いて、伝統的な彫刻の概念を拡張するエルヴィン・ヴルムの日本初の美術館での個展。日本で唯一、十和田市現代美術館が常設展示している代表作の《ファット・ハウス》《ファット・カー》をはじめ、日本初公開となる最新作《学校》などにより、規範・制度・権力の曖昧さを鑑賞者に問いかける。

[日程] 4月12日～11月16日

[会場] 十和田市現代美術館

関東

●茨城県水戸市

水戸市芸術振興財団

〒310-0063 水戸市五軒町

1-6-8

Tel. 029-227-8111 菊池広子

<https://www.arttowermito.or.jp/>

ゆうくんとマツさんの

「おじいちゃんはロボットはかせ」

東日本大震災後、「子どもたちに元気を!」と水戸芸術館専属劇団ACMメンバーの大内真智と小林祐介が結成した絵本の読みきかせユニット「ゆうくんとマツさん」演出・構成による、子どもの観劇デビューにぴったりの舞台シリーズ。今回は2021年にコロナ禍で制限のあるなかで上演した風変わりなロボットたちが大活躍する愉快な物語を、パワーアップしてお届けする。

[日程] 5月2日～6日

[会場] 水戸芸術館ACM劇場

●栃木県宇都宮市

宇都宮美術館

〒320-0004 宇都宮市長岡町1077

Tel. 028-643-0100 小堀修司

<http://u-moa.jp/>

第6回 宇都宮美術の現在展

宇都宮とさまざまな関わりを持ちながら日々制作を続けている美術家の作品を一堂に展覧することで、現在の宇都宮美術の一側面を浮かび上がらせる試み。近作・新作を7分野に分類し、日本画12点、洋画32点、版画15点、彫刻・立体8点、工芸19点、書18点、写真10点の合計114点(作家同数)を展示。

[日程] 2月16日～4月6日

[会場] 宇都宮美術館

●埼玉県蕨市

蕨市立文化ホールくるる

〒335-0004 蕨市中央1-23-8

Tel. 048-446-8311 黒澤美和子

<https://warabi-fmpc.or.jp/>

～麗しき春!心の音!～

オーボエ&ハーブ Duo Recital

蕨市で活躍するアーティストに

焦点を当てた「蕨のアーティストたち」シリーズ。60回目となる今回は、蕨市出身の山館兄孟(オーボエ)、市音楽家協会会員でもある高野麗音(ハーブ)を招き、ドビュッシー『垂麻色の髪の乙女』や『夢想』、バスクリ『ベッリーニのオマージュ』など、柔らかな音色とともに春を感じられる楽曲を演奏する。

[日程] 4月20日

[会場] 蕨市立文化ホールくるる

●東京都世田谷区

せたがや文化財団

〒154-0004 世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー 5F

Tel. 03-5432-1535 丸山真樹

<https://www.setagayamusic-pd.com/>

春休み特別企画

子どもと大人に贈る語りと音楽

「遠くから来たきみの友だち」

作曲家の細川俊夫が初めて子どものために作曲し、小説家で詩人の多和田葉子がおとぎ話「浦島太郎」を題材に、朗読テキストをドイツ語で書き下ろした作品。2021年にルクセンブルクで初演され、今回、ピアノの北村朋幹をはじめとする若手演奏家たちの熱意で、日本初演が実現。子どもの柔軟な感性で新しい音楽を受け止めてほしいとの願いを込めたコンサートとなっている。

[日程] 4月4日

[会場] 成城ホール

●東京都板橋区

板橋区立美術館

〒175-0092 板橋区赤塚5-34-27

Tel. 03-3979-3251 印田由貴子

<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/artmuseum/>

エド・イン・ブラック

黒からみる江戸絵画

日本絵画において、何ものにも染まらない特異な色として古くから欠かすことのできない要素の一つとなっている「黒」に焦点

を当てた展覧会。夜を表現した絵師たちの影や暗闇に対する創意工夫や、当時の文化や価値観なども紹介することで、江戸時代の人々は黒に対して何を見出し、何を感じていたのかについて検討し、その魅力に迫る。

[日程] 3月8日～4月13日

[会場] 板橋区立美術館

●横浜市

横浜美術館

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1

Tel. 045-221-0300 蔵屋美香

<https://yokohama.art.museum/>

横浜美術館リニューアルオープン記念展「おかえり、ヨコハマ」

大規模改修を経て2月に全館リニューアルオープンした横浜美術館。館長の蔵屋美香の就任後初のキュレーションによる展覧会。「多様性」の観点から、あまり注目されることのなかった開港以前の横浜に暮らした人びとや女性、子どもなど、さまざまなルーツを持つ人びとに改めて光を当てる。館のコレクションだけでなく、市内博物館等の所蔵品や本展のために依頼した新作なども展示。

[日程] 2月8日～6月2日

[会場] 横浜美術館

北陸・中部

●長野県原村

八ヶ岳美術館

〒391-0115 諏訪郡原村17217-1611

Tel. 0266-74-2701 塚崎美歩

<https://yatsubi.com/index.ph>

**大正・昭和初期の東京アトリエ村を彩った芸術家たち
鈴木金平と清水多嘉示**

大正のアトリエ村で活躍した芸術家たちの作品を紹介する展覧会。原村出身の画家・彫刻家、清水多嘉示の師である中村彝(つね)の活動を支えた鈴木金

平の作品30点を中心に、中村と交流のあった若い世代の友人たちの作品を合わせ計60点を展示。油絵ワークショップと鈴木や清水に関連する講演会が企画されており、二人が生きた時代の美術について理解を深めることができる。

[日程] 4月5日～6月22日

[会場] 八ヶ岳美術館

●岐阜県岐阜市

サラマンカホール

〒500-8384 岐阜市藪田南5-14-53

Tel. 058-277-1113 金子根古

<https://salamanca.gifu-fureai.jp/>

**シリーズ賢治Ⅲ
『セロ弾きのゴーシュ』**

宮澤賢治の名作を朗読で綴るシリーズ。愛知県立芸術大学とサラマンカホールの包括連携事業の一環で、このプログラムのために結成した室内奏団を同大学の学生や院生、卒業生が務める。今回は俳優・後藤卓也の朗読、ゴーシュ役のチェリスト・清水陽介とゴーシュ五重奏団の演奏で、『セロ弾きのゴーシュ』を贈る。

[日程] 4月12日

[会場] サラマンカホール

●静岡県

SPAC-静岡県舞台芸術センター
〒422-8019 静岡市駿河区東静岡2-3-1

Tel. 054-203-5730 丹治陽

<https://spac.or.jp/>

SHIZUOKA せかい演劇祭

財団設立30周年の取り組みのスタートとして、毎年開催している「ふじのくにせかい演劇祭」をリニューアル。静岡でさまざまな“せかい”に遭遇し、演劇が日常に活力をもたらす“ハレの場”となることを目指す。スイスやフランスで制作された話題作を日本で初演するほか、古代インドの叙事詩を舞台化したSPAC新

作の野外劇を上演。公園や商店街、駿府城公園など市内各所でストリートシアターのフェスティバルも同時開催。

[日程] 4月26日～5月6日

[会場] 静岡芸術劇場、舞台芸術公園、駿府城公園 ほか

●愛知県春日井市

春日井市道風記念館

〒486-0932 春日井市松河戸町5-9-3

Tel. 0568-82-6110 石井彩由美

<https://www.city.kasugai.lg.jp/shisei/shisetsu/bunka/tofu/index.html>

**小さきものはみな愛(うつく)し
—懐紙・短冊・扇面・小品—**

古来美しく愛らしいものとして珍重されてきた「小さきもの」に注目した館蔵品展。扇面・短冊など小さな形式の書作品や、色とりどりの美しい装飾料紙に書かれた作品など、小品ならではの作品約45点を紹介。伝統的な美しさをたたえた書からユーモラスな書画まで、小さな書の世界を堪能できる。

[日程] 2月21日～4月20日

[会場] 春日井市道風記念館

近畿

●三重県津市

津市久居アルスプラザ

〒514-1136 津市久居東鷹跡町246

Tel. 059-253-4161 鹿毛貴之

<https://www.tsuhisai-ars.jp/>

喜多流 津市民新能 in 高田本山専修寺

高田本山専修寺境内に特設舞台を設け、薪能を開催する。三重県初の国宝建造物である御影堂を背景に喜多流半能『田村』を演じ、初代伊勢津藩主の藤堂高虎が愛した「大和猿楽」の雅やかで幽玄な世界を楽しむことができる。会期前には能・狂言初心者向けの解説講座が開催され、現役能楽師が薪能の

楽しさをレクチャーする。

[日程] 4月26日

[会場] 高田本山専修寺境内特設舞台



昨年度の公演風景

●滋賀県大津市

びわ湖芸術文化財団

〒520-0806 大津市打出浜15-1

Tel. 077-523-7133 有田淳

<https://www.biwako-hall.or.jp/>

**びわ湖の春 音楽祭2025
～挑戦～**

毎年春に開催している音楽祭。今年のテーマは「挑戦」。夢や憧れを現実にするために臆せず挑むことを大切にしたい、という思いが込められている。芸術監督・阪哲朗が指揮する京都市交響楽団公演をはじめとした一流アーティストの演奏のほか、地元高校生とびわ湖ホール声楽アンサンブルの合同合唱、「第1回びわ湖ホールピアノコンクール」受賞者のコンサートなどイベントが盛り沢山。

[日程] 4月26日、27日

[会場] 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

●京都市

京都コンサートホール

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-26

Tel. 075-711-3231 中田・石川

<https://www.kyotoconcerthall.org/>

聴いて!歌って!楽しもう! きょうと・キッズ・フェスタ Special support by 足立病院

開館30周年を記念して実施するキッズフェスタ。0歳から参加できる京都市交響楽団のオーケ

▼今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

ストラコンサートや、ヴァイオリン・フルートなどの楽器演奏体験、タイルを使ったワークショップなど、楽しめるイベントが盛り沢山。野外でもアコースティック音楽のライブイベントやマルシェを開催。病院や鉄道会社と連携して、子育てお悩み相談トークライブや鉄道の運行を支える駅運転の職業体験ができるコーナーも。

[日程] 5月3日

[会場] 京都コンサートホール

●大阪府箕面市

箕面市立メイプルホール
〒562-0001 箕面市箕面5-11-23
Tel. 072-721-2123 和田大資
<https://minoh-bunka.com/>

身近なホールのクラシック ファリャ：オペラ『ペドロ親方の 人形芝居』

身近にクラシック音楽に親しんでもらおうというシリーズ企画。伊東信宏・大阪大学文学部教授の企画で、スペインの作曲家ファリャが『ドン・キホーテ』の一場面を人形劇のためのオペラとして仕立てた作品『ペドロ親方の人形芝居』を、浄瑠璃人形で上演するユニークな試み。演出にマイム俳優・いいむろなおきを迎え、プロのアーティストや大阪大学社会人プログラム受講生が共に舞台をつくり上げる。

[日程] 4月26日

[会場] 箕面市立メイプルホール

●兵庫県西宮市

兵庫県立芸術文化センター
〒663-8204 西宮市高松町2-22
Tel. 0798-68-0223 木村孝夫
<https://www1.gcenter-hyogo.jp/>

佐渡裕芸術監督プロデュース オペラ2025関連企画 歌劇 『さまよえるオランダ人』ハイ ライトコンサート～ええとこどり!

2011年から毎年開催されている佐渡裕芸術監督プロデュースオ

ペラのハイライトコンサート。7月に上演される『さまよえるオランダ人』の関連企画として、本編の見どころ・聴きどころを、関西を拠点に活動するピアニストの伊原敏行によるストーリー解説を交えながら紹介する。「ええとこどり県内ツアー」として丹波篠山市や明石市など県内9カ所でも開催。

[日程] 4月16日、17日

[会場] 兵庫県立芸術文化センター

中国・四国

●島根県益田市

島根県芸術文化センター「グラントワ」
〒698-0022 益田市有明町5-15
Tel. 0856-31-1860 新田直子
<https://www.grandtoit.jp/>

グラントワ開館20周年記念 しまね伝統芸能祭2025オープ ニング公演「渡来バード、ドラ イバー」

「しまね伝統芸能祭2025」オープニング公演として、島根に根付く多様な伝統芸能の原点である自然・風土・生活文化にまなざしを向けた新たな作品を創作する。県西部での滞在を含む約3カ月間、アーティスト4名が石見地域でリサーチを行い、地域に伝わる民話や各地で採集した素材や音をモチーフにした、美術×音楽のインスタレーション作品をグラントワ中庭の水盤を舞台に発表する。

[日程] 4月27日

[会場] 島根県芸術文化センター「グラントワ」

●島根県安来市

安来市加納美術館
〒692-0623 安来市広瀬町支部345-27
Tel. 0854-36-0880 千葉潮
<https://www.art-kano.jp/>

安来ゆかりの美術家たち3～安 来市民に愛された画家たち～

普段は展示する機会の少ない安来市が所蔵する美術品を中心に紹介する展覧会の第3弾。これまで残されてきた記録が少なかった美術家について、市民からの情報提供により、作家同士の繋がりなどの背景が見えてきたり、展示作品が市民の思い出を呼び覚ますほか、市外の人にも安来市の美術家たちを知ってもらう機会となっている。

[日程] 1月18日～4月6日

[会場] 安来市加納美術館

●岡山県鏡野町

妖精の森ガラス美術館
〒708-0601 苫田郡鏡野町上齋原666-5
Tel. 0868-44-7888 三浦和
<https://fairywood.jp/>

ひかりのかたち

強い紫外線で光る特徴があるウランガラスを専門に収蔵している同美術館ならではの展覧会。現代のガラス作家がさまざまなアプローチで制作した多種多様なウランガラス作品を展示。展示室には常時ブラックライトが点灯され、ウランガラスの特徴が最もわかりやすく、かつ幻想的な展示風景が楽しめる。

[日程] 11月13日～5月12日

[会場] 妖精の森ガラス美術館

九州・沖縄

●福岡県直方市

直方谷尾美術館
〒822-0017 直方市殿町10-35
Tel. 0949-22-0038 市川靖子
<https://yumenity.com/nogata-tanio-art-museum/>

子どものための美術館20

「未来と過去のまち 大調査」

公募で集まった小学3年生から中学3年生の子どもたちが、展覧会の企画や地域イベントへの参加など、年間を通して活動する「子どもスタッフ」。年度末の展覧会では、展示する作品の制作

のみならず、収蔵品のセレクト・解説やギャラリートークなども企画している。活動20周年となる今年は「未来と過去」をテーマに、子どもたちが思い描く“まち”を展示。同企画に携わってきた美術館スタッフやアーティストらを招いた座談会も開催され、20年の活動を振り返る。

[日程] 2月22日～4月6日

[会場] 直方谷尾美術館



収蔵庫の中で作品を観察する様子

●沖縄県浦添市

アイム・ユニバース てだこホール
〒901-2103 浦添市仲間1-9-3
Tel. 098-942-4360 山口将紀
<https://tedakohall.jp/>

又吉栄喜 演劇シリーズ

『豚の報い』

毎年りっかりっかフェスティバルを開催するエーシーオー沖縄との連携で、浦添市出身の作家・又吉栄喜の作品をモチーフとしたシリーズをスタート。昨年の『亀岩奇談』に続き、今年、豚によって魂(まぶい)を失った女の厄を払う珍道中にまつわる物語から沖縄の文化や風土を描く芥川賞受賞作品『豚の報い』を、脚本・堀江安夫、演出・藤井ごうにより初めて舞台化する。

[日程] 3月29日

[会場] アイム・ユニバース てだこホール



稽古の様子

公設民営の新たな仕組み「コンセッション」を詳説

制作基礎知識シリーズVol.55

コンセッション (公共施設等運営権)とは

講師 小林真理
(東京大学大学院人文社会系
研究科 教授)

令和6年度の文化庁当初予算の資料「現代的課題に対応した劇場・音楽堂等の総合的な機能強化の推進」における「文化施設サービス刷新・活動活性化等運営改善推進支援事業」において、コンセッション導入促進の予算が7,200万円付いた。この事業は「コンセッション導入に関する専門家による電話相談対応や自治体等への専門家派遣、導入可能性調査等に要する経費等への助成」をするものである。そして、2024年11月6日には愛知県知事がパブリックコメントの聴取をきっかけに、「愛知芸術文化センターの建物管理及び芸術劇場の運営について、公共施設等運営権(コンセッション)方式による運営がより効果的であり、また、民間事業者の参画の可能性は十分にあると認められたことから、コンセッション方式を導入する」という会見を行った。コンセッションとはどのようなものなのか、解説する。

*1 以下の文献を参照した。

- ・丹生谷美穂、福田健一郎「コンセッション、従来型・新手法を網羅した—PPP/PFI実践の手引き—」(中央経済社、2018年)
- ・荒川潤「コンセッションと官民連携ガバナンス—失敗リスク低減を実現する基盤づくり」(勁草書房、2023年)

*2 さらにこの改正で国と民間資金の出資によって株式会社民間事業等活用推進機構(通称：官民連携インフラファンド)が設立され、独立採算型のPFI事業に対して融資がなされることになった。

●公共施設の再編という時代

現在、多くの公立ホールが大規模改修、更新の時期に入っている。既存施設を適切に使用するために保全・改修していくのは当然と思えるが、建設した当時と経済状況や社会環境が変化しているため、実際はそれほど簡単ではない。また設置した自治体側に、年月の経過による経年劣化など見えにくいコストを減価償却によって把握するという仕組みが、2015(平成27)年に地方公会計制度が導入されるまでなかったことなども計画的な改修を阻む一因となってきた。

2025年2月現在、1966年に開設した日本の伝統芸能の上演・研修機能を担ってきた国立劇場の建て替えに関連して、入札不調が2回続いている。国立劇場の設置運営に責任を持つ独立行政法人日本芸術文化振興会も、同法人を所管する文化庁も、国立劇場再整備についての検討は2014年度から準備を進めてきた。入札不調は、もちろん劇場建設だけでなくあらゆる公共施設建設の領域に及び、そこには資材費や人件費の高騰、入札応募側の思惑、設置者側の問題など複合的な要因によるものだ。とりあえず、国立劇場については、2024年度の補正予算によって200億円の整備予算が準備された。とはいえ、開館までの道のりはまだ遠そうだ。

また、2023年6月には神奈川県民ホールの閉館が決まった。神奈川県民ホールは、大型の舞台芸術公演を担う首都圏の中でも主要なホールの一つであった。海外から招聘される引越公演型のオペラ、バレエなどが行われており、2,500席を擁する大ホールは同じ設計者によるNHKホールに次ぐ規模だ。その後の方針は決められないまま閉館が発表されたことは大変遺憾だ。2025年度には再整備に向けた検討が始まるようだが、これから基本計画を策定することになり、新たな施設の方向性が決まるまで先は長い。

●民間資金による公共施設整備の制度^{(*)1}

いずれの場合にも、何を建設するか(改築

するか)という問題があるが、資金をどのように確保して行うか、という問題も横たわっている。行政の場合に一般的な収入は税収のみである。大型の公共施設の場合、一地方公共団体の自前の資金だけで建設することはほぼできない。債券を発行するなどの方法もあるが、国のさまざまな支援をどのように使うかも考えどころである。国の直接的財政支援以外には、民間の資金調達能力を引き出しながら民間活力を使い、公共施設を整備する方法がいわゆるPFI(Private Finance Initiative)という手法だ。近年推進されている官民連携の一形態であり、おそらく前述の2施設についても、何らかの形でPFI事業が活用されることが予想される。

民間資金を調達して公共施設を整備するための法律が、2009年に施行された「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」(通称：PFI法)だ。そして、2011年の改正において導入されたのがコンセッション(公共施設等運営権)である^{(*)2}。

PFIの形態には、サービス購入型と独立採算型がある。前者は公共施設の整備・運営に費やす経費の全部または一部を官が負担するものであり、後者が公共施設等の運営によってあげる収益により事業全体を賄うものである。後者がいわゆるコンセッション方式ということになる。前者は結局のところ自治体が公共施設整備の費用を先送りするだけに過ぎないことから、より民間事業者の裁量を高める方向性で導入されたのが独立採算型になる。PFI事業は、広く公共施設全般、空港、上下水道、道路、河川、学校施設、病院、廃棄物処理場等、美術館、文化センター整備などに使われてきた。例えば、神奈川県立近代美術館(新館)(2003年)は法律制定前であるがPFI事業として行われたものであり、穂の国とよはし芸術劇場PLAT(2013年)などもある(いずれもサービス購入型)。

コンセッション事業は、「利用料金の徴収を行う公共施設について、施設の所有権を公共主体が有したまま、施設の運営権を民間事業

者に設定する方式」と説明されている。内閣府の説明にはさまざまなメリットが掲載されている。公共施設の整備を行いたい地方公共団体は、①公共施設運営権という権限を設定することによって、対価を取得することができる、②民間事業者の技術力や投資能力を活かして老朽化・耐震化対策を促進することができる、③技術職員の高齢化や減少に対応した技術継承が円滑にできる、④施設所有権を持ちつつ、運営上のリスクを一部移転することができる。

そして民間事業者は、①「官業開放」によって事業機会が創出される、②事業運営・経営について裁量が拡大する、③人口減少や高齢化に対応して一定の範囲内で柔軟に料金設定ができる、④運営権を担保に資金調達ができる。さらに金融機関・投資家のメリットもあり、①運営権の裏付けがあることによって金融機関の担保が安定化する、②運営権の譲渡が可能であり、投資家の投資リスクが低下する。そして公共施設の利用者には、事業者の自由度の高い運営によって、低廉かつ良好なサービスを楽しむことができるようになる、と一見いいことづくめのような説明になっている。いずれにしても、長期間にわたって、運営する会社に収益を保証する仕組みであるということだ^{(*)3}。

コンセッションもいろいろな方法がある。例えば日本の美術館として初めてコンセッション方式を導入した大阪中之島美術館(2022年)は、施設整備は公共が行い、施設の開設に伴って

PFI事業の優先交渉権者となった株式会社朝日ビルディングが特別目的会社^{(*)4}「株式会社大阪中之島ミュージアム」を設立。ここが運営権を有して、美術館の運営業務と不動産管理、その他の附帯関連業務の一切を行っている(館長および学芸員は地方独立行政法人大阪市博物館機構から出向)。

全国公立文化施設協会は、2022年7月にコンセッション方式導入の検討という文書を発出し、導入にあたっての課題を提示している^{(*)5}。第1に、公立文化施設の設置の目的を明確にした上で実施事業等の位置づけを再定義する必要がある。第2に、国の補助事業等を活用して設置した施設については補助金適正化法に則り、処分制限期間等が経過しているかの確認が必要になる(既存施設をコンセッションに移行するための注意点)、ということだ。

また、最近では国土交通省が、スモールコンセッションという制度の推進に力を入れている。「地方公共団体が所有・取得する空き家等の身近な遊休不動産(廃校等の現在使われていない施設、住民から寄付を受けた古民家等)について、民間の創意工夫を最大限に生かした小規模なPPP/PFI事業を行うことにより、地域課題の解決やエリア価値の向上につなげるスモールコンセッションの推進に向け、さまざまな取組を検討・実施しています」とあり、地域の文化資源や文化財の活用分野にもコンセッションが導入されようとしている。

*3 『コンセッションと官民連携ガバナンス』23頁。

*4 特別目的会社
特定された事業のために設立される法人のことで、この法人により特定の資産を切り離して特定の事業をその資産だけを運用して行うことでリスクヘッジと投資を促すことが可能となる。

*5 全国公立文化施設協会「文化施設へのコンセッション方式(公共施設等運営権)導入の検討」(2022年7月8日文書)。下図は同上5頁から掲載。



▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

神奈川県綾瀬市・海老名市・座間市・大和市 アートプロジェクト 「ある日」



上：キュンチョメの横断幕/下：飯川雄大作品のハンドル(左が武藤さん)

●アートプロジェクト「ある日」

【主催・企画】綾瀬市・海老名市・座間市・大和市

【会場・会期】座間市役所：2025年2月21日～3月2日、海老名中央公園・ピナウオーク：2月21日～28日

*シンポジウム「孤独・孤独にアートができること」(2月21日)の登壇者は大西連、鈴木康広、西原珉、奥田知志・NPO法人抱撲理事長、室井舞花、田中みゆき、武藤清哉。

*1 孤独や孤立を社会全体で取り組むべき課題と位置づけた孤独・孤立対策推進法(2024年施行)に則った内閣府の事業。地方における孤独・孤立対策のための官民連携プラットフォーム整備を後押しすることを目的に、地方自治体と民間のNPO等支援組織が連携・協働し、対策に取り組む活動を支援。

*2 生活保護に至る前の自立支援策の強化を図る生活困窮者自立支援法(2015年施行)は、支援対象を「経済的に困窮し、最低限の生活を維持できなくなることになる恐れのある者」と規定。座間市役所は、「恐れのある状態かどうかは話を聞かないと分からない」という考えの下、「断らない相談支援」の理念を掲げ、地域福祉課に自立サポート係を置き、広く相談を受け付け。生活困窮者の複雑・複合化した問題にも対応できるように、市社会福祉協議会やNPO、不動産事業者などと連携して地域ネットワーク(チーム座間)を構築して取り組む。

神奈川県綾瀬市、海老名市、座間市、大和市の4市が企画・主催し、孤独や孤立を見つめるアートプロジェクト「ある日」を地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業^(*)を活用して実施した。座間市は2024年にも同事業で現代美術家の鈴木康広の展覧会を開催して話題を呼んだ。今回はキュレーター・プロデューサーの田中みゆきさんがキュレーションし、現代美術家の飯川雄大、写真家の金川晋吾、アートユニットのキュンチョメが協力。生活のさまざまな困りごとに関する「相談支援」に関わる人たち(利用者、市職員ら支援者)が参加し、ワークショップや展覧会を行った。2月21日、22日に展覧会とシンポジウムを取材した。

プロジェクトは、孤独や孤立を感じる人々と支援者が作家と一緒に過ごすワークショップに重点を置いたのが特徴で、交流の中で生まれた表現を作家の作品とともに展示した。展覧会は、座間市役所と、市民で賑わう海老名駅前前の複合商業施設ピナウオーク・海老名中央公園の2カ所で開催。

座間市役所は、1階吹き抜けにキュンチョメが「いま、すべての生き物が呼吸している」と記した横断幕、2階の相談窓口には見えない場所(建物の外)にぶら下がったバッグが上下するハンドル、見た目は何の変哲もないのに異様に重いバッグという飯川作品が設置されていた。いずれも今の社会の矛盾をユーモアを交えて看破した作品だった。7階の展望回廊には、今の時間や人生を肯定することをテーマに金川が当地で3日間行った写真と日記のワークショップ、時間のストレッチをテーマにキュンチョメが実施した貝を調理して食べた後の貝殻に水平線を描く綾瀬市でのワークショップの成果を展示。中でも日頃支援を受けている利用者が金川や支援者の姿を捉えた写真は、日常的に紡がれた関係性が伝わってくる見ごたえのある展示だった。

海老名市の会場では、他者をイメージする遊びとして「イタズラ」をテーマに飯川と参加者が自由な発想でオブジェ26点を制作し、広大な商

業施設の階段裏や植栽の中など意表を突く所に展示。もらった地図を手に探す仕掛けで、そのイタズラ心に発想や視界が揺さぶられる時間だった。

「孤独・孤立にアートができること」と題し大和市で行われたシンポジウムは、内閣府孤独・孤立対策推進室政策参与の大西連・自立生活サポートセンターもやい理事長や心理療法士の西原珉・秋田市文化創造館館長7人が登壇。「つながり」の回復に現代アートが果たせる役割やアプローチの多様性、支援においてひとりひとりのナラティブ(文脈)を大切にすることなどが話し合われた。「ひきこもり女子会」などを企画・運営しているひきこもりUX会議理事の室井舞花さんが「問題の本質は生きづらさ。本人が自己肯定感を取り戻すことが大事」と指摘したのも印象的だった。

座間市での2年連続のプロジェクトの発起人が、「断らない相談支援」^(*)で知られる同市生活援護課(現・地域福祉課)に昨年まで勤務した都市整備課の武藤清哉さんだ。「困りごとを抱え窓口を訪れる方たちの個性に魅力を感じ、それを大切にしてほしいと思ったのがきっかけです。ワークショップは参加者を公募せず、相談支援員や連携する支援団体に声を掛けてもらいました。ひきこもり状態の人や家族は知り合いを避けて他自治体へ相談に行くことも多く、相談支援を行う共催3市との連携体制の強化も目的です」と説明。「障害は世界を捉え直す視点」をテーマに活動する田中さんは、「今回のプロジェクトは孤独や孤立が自分の中にあると感じている“ひとり”に向けて企画しました。対象を狭めていった先に多くの人が共有できるものがあると思っています。展示を通じて、社会の中で孤独や孤立している人の存在や視野を広げる大切さを感じていただければ」と話した。

表現者と支援される/する人が立場を超え、ユニークな時間と場を共創した本プロジェクト。高齢化や単身世帯増加が進むいま、どんな人も孤独や孤立の問題と無縁ではない。それを先駆ける、先進性と示唆に満ちた企画だった。(美術ジャーナリスト・永田晶子)